

SDGs 概念に基づく豊かな公共空間創出に着目した 路面公共交通と都市デザイン

Design Analysis of Urban Public Spaces and LRT based on the SDGs

ペリー 史子（PERRY Fumiko）

環境と人に優しい新しい公共交通、次世代型路面電車とも言われる LRT (Light Rail Transit) プロジェクトについて、その導入・整備の仕組み、車体や停留所等交通施設のデザイン、周囲環境等について研究を進めてきているのであるが、その過程で、LRT は単に交通利便性を向上させるだけではなく、その沿線では広がりのある歩行者空間、商業施設、都市アメニティ施設、公園や広場、他交通施設などが密に連動し、楽しく歩き回遊できる都市が創出してきていることが見いだされた。街中にはベビーカーや車椅子の人はもちろん、様々な人が各自の速度で歩き、オープンカフェでくつろぎ、公共空間での時間を楽しんでいる姿を目にする。

欧州諸都市での現地調査・ヒアリングからは、LRT 導入は、交通渋滞対策や CO₂ 削減という環境的配慮だけではなく、交通弱者を含めた全ての人を対象とした移動手段の確保、社会的分断の解消などと多岐にわたり、また、バッテリーや再生エネルギー等の技術革新に加え、温暖化に配慮した植栽の工夫やデザインによる街のイメージ創出など、多角的な要素が絡み合っている様子がわかってきた。

一方で 2015 年 9 月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）に目を向けると、そこに掲げられている「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現¹⁾ は、LRT 導入を進めてきた都市が目指していることも一致する点が見受けられた。

そこで本研究では、LRT の持つ多面的な価値を明らかにするための基礎的研究として、現地実態調査およびインタビュー調査において収集した資料を対象とし、SDGs の 17 の項目の内容に照らし合わせて LRT プロジェクトの目的や計画・デザイン等の内容を分類し、それらに基づいて LRT プロジェクトの目指すところを考察することとした。

結果をまとめると以下のようなになる。

- ・ LRT プロジェクトの内容を SDGs の項目に基づいて分類することからは「保健、すべての人に健康と福祉を」、「教育、質の高い教育をみんなに」、「エネルギー、エネルギーをクリーンに」、「イノベーション、産業と技術革新の基礎」、「都市、住み続けられるまちづくりを」、「気候変動」に当てはめることのできる様々なキーワードを抽出することができた。
- ・ SDGs 概念という新たな視点から LRT プロジェクトの目的、および計画・デザインの内容を分類することによって、このプロジェクトはそもそも交通計画という枠で考えるのではなく、SDGs が示しているような社会全体が目指している方向と多面的に関わり、特に新しい LRT プロジェクトにおいては都市の将来イメージをも表そうとしていることを明らかにすることができ

た。

さらに、2019年に実施したアメリカのヒューストン、ダラスの現地実態調査の結果についても、SDGsという視点も踏まえながら考察した。

なお、研究成果の一部は、「社会受容性の高い LRT 計画立案に関する一考察 —欧州 14 都市実態調査から導かれること—」（日本都市計画学会、都市計画論文集 Vol.55 No3、2020年11月刊行）、及び「アメリカ 2 都市における LRT と都市公共空間のデザインに関する考察-ダラス、ヒューストンでの現地実態調査に基づいて-」（土木学会、土木計画学研究・講演集 Vol.61、2020年10月刊行）にまとめられている。

参考文献： 1) https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/about_sdgs_summary.pdf